



広報では、武田の里にらさきで行われる行事や、あなたの身の回りの話題を募集しています。
市役所企画財政課企画推進担当
☎ 22 - 1111 (内線 356)までご連絡ください。

「可憐なビオラを児童が植栽」

1月31日、葦崎小学校で児童がビオラ（スミレ科）の植栽を行いました。

これは、宝塚歌劇団や阪急電鉄などの生みの親である「小林一三氏」生誕の地が葦崎市であることにちなみ、市内の児童・生徒に偉大な先人について理解してもらおうと、市教育委員会が宝塚のイメージであるスミレ（ビオラ）の苗を市内の小中学校に配布して実施されました。



「自慢のおひなさまが完成したよ！」



3月3日のひな祭りを前に、葦崎児童センターで2月7日、「おひなさまづくり」が行われました。当日は、親子で思いおもいに顔を描きこみ、世界に1つの手作りおひなさまを作りました。おひなさまが完成すると、うれしそうな表情で自慢のおひなさまを見せてくれました。

「鬼は〜外、福は〜内」



中央町の雲岸寺では、2月3日の「節分」の日に大相撲中村部屋の特別年男力士3人を招いて成田講節分会が行われました。

この節分会は「五穀豊穡・家内安全・厄除け」の祈りをこめて盛大に開催され、当日は、今年1年の福を掴もうと、境内にたくさんの方が詰め掛けました。

「家に帰って鬼退治！」

北東児童センターでは、2月1日に「鬼のお面づくり」が行われました。

子どもたちは好きな色を選び、紙を切ったり貼ったりと、お母さんに手伝ってもらいながら仕上げました。

できあがったお面は、迫力ある(?)愛嬌のあるかわい鬼ばかりで、「家に帰って豆まきをするんだ!」とはしゃいでいました。





「全て地元の食材を使用し、
麵を打つところからはじめ、
郷土食「ほうとう」づくりが
菲崎小学校で行われました。
不慣れな手つきではありま
したが、一生懸命に自分たち
で作った「ほうとう」は格別
だったようで、
「家に帰ったら家族に作り方を
教えてあげるんだ」
という子どもたちの声があ

「食」の大切さを伝えたい

「包丁を持つことがないと
いう子どもが多く驚きました。
また、ほとんどの子どもは、
麵打ちが初めての経験だった
ようで、楽しそうに作業して
くれました。これを機に、家
でも料理のお手伝いをしたり、
「食」について関心を持つても
らえるとうれしいです。」(菲
崎町食生活推進委員会)

食育とは？

近年、栄養の偏り、不規則な食事、肥満や生活習慣病の増加、食材の海外への依存、伝統的な食文化の危機、食の安全性など「食の崩壊」が問題となっています。

「食育」とは、これらの問題を解決するために、私たちが自分で自分の健康を守り、健全で豊かな食生活を送るための「食事の自己管理能力」を育てるために必要な教育です。

次のことを心がけ、私たちが生きていくうえで欠かすことのできない



「食」について考えてみませんか？

- 1日3回、規則正しい食生活を
- 栄養バランスのとれた食事を摂ろう
- 家族みんなで楽しい食事を
- 食べ物への感謝の気持ちを忘れない
- 地産地消を推進しよう



「大好きなお父さんにプレゼント」



2月13日に市民会館で、チョコレートを使ったケーキづくり教室が行われました。

これは、大好きなお父さんにバレンタインデーのプレゼントとして渡すためのケーキで、子どもとお母さんが「愛」を込めて作りました。おいしくできたかな？

「虫歯に負けるな」

子どもたちの歯の健康を守るため、2月6日、子育て支援センターで歯科検診が開かれました。

当日は、本当にたくさんの子どもが集まり、堀内歯科のスタッフから、歯の健康やブラッシング方法についてのアドバイスを受けたあとに、歯科検診、予防処置（フッ素塗布）を行いました。

怖くて泣き出してしまう子どももいましたが、大きなお口を開けて、虫歯がないかチェックしてもらいました。

